

和歌の聖地・和歌浦誕生十三百年記念大祭 短歌大会

令和六年度 ユース短歌

入賞作品

【特別賞】

和歌山県知事賞

隅っこに走り書きした本音消しふと見上げると消えかけの虹

智辯学園和歌山中学校

三年 栄田 伊吹

和歌山市長賞

ラムネ瓶の底を覗いたおれたちはビー玉とろうと必死になつた

岩出市立岩出小学校

六年 掛田 陽士

和歌山県教育委員会教育長賞

手を繋ぐ母と子どもの笑い声うちも今夜はオムライスかな

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 田村 梨緒奈

和歌山市教育委員会教育長賞

強がつていじられキャラで生きている一番楽で苦しい立ち位置

和歌山県立桐蔭中学校

三年 田中 愛望

大会実行委員長賞

授業中消さねばならぬ落書きが上手に描けてとても虚しい

和歌山県立桐蔭高等学校

二年 村田 望心

和歌山県歌人クラブ賞

体育館大きなせいろでチアダンス蒸された私肉まんのよう

和歌山県立桐蔭中学校

一年 神前 奏歩

衣通姫賞

プール後の眠気ただよう三限目髪から香る塩素のにおい

和歌山県立古佐田丘中学校

二年 西井 結子

玉津島神社賞

白球を追う熱闘のボードには南海トラフの注意が浮かぶ

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 宮井 優

【佳作】

(小学校の部)

どこの木もセミのぬけがらまたどこか旅に出るのか夏の始まり

岩出市立岩出小学校

五年 栗原 曜大

せいくらべ負けたくないどこの木も元気なひいおばあちゃん

和歌山市立高松小学校

四年 田井 和哉

かたおなみの海でひろつた青い石今でもずっとだいじな宝

和歌山市立和歌浦小学校

五年 藤本 麗奈

ふうりんがチリンチリンとなりひびくまだ夏は終わりはしない

和歌山市立高松小学校

四年 馬田 えみい

ガラスごし青白い光つかめそうよいの明星勇気をくれた

和歌山市立和佐小学校

五年 三田 純音

(中学校の部)

夏休み入道雲が視界にはありえないほどそこにはあった

岩出市立岩出中学校

三年 勝谷 凌太

かき氷みるみるうちにさとう水それをもぐくりのみほす真夏

岩出市立岩出中学校

二年 池田 玲哉

早送りされているようであせりだすテスト前夜の必死な背中

岩出市立岩出中学校

一年 夕崎 愛菜

新学期色とりどりのボールペン自分の生活はじけるように

和歌山県立桐蔭中学校

一年 揚戸 心菜

ラケットの素振りをゆうゆうこえていくテニスコートの赤とんぼたち

和歌山県立桐蔭中学校

一年 蓬田 元

おはようとパジャマの私にといかけるとじたあさがお役目をおえて

和歌山県立桐蔭中学校

一年 塩野 純葉

水たまり映し出すのはひまわりと背比べをする幼い私

和歌山信愛中学校

一年 安居 美帆

木の下でヒグラシの声を聞きながら今日のことはんはハヤシライスだ

和歌山県立桐蔭中学校

一年 小川 紗永

一瞬で友との思い出蘇る波のきらめき風のささやき  
サイダーにうつる私と目が合つて頭に浮かぶ宿題の山

智辯学園和歌山中学校

一年 合田 昇平

いらっしゃい少しやつれた祖母笑う食卓の周りの空いた一席

智辯学園和歌山中学校

三年 中川 真衣

満月の夜のドライブラジオでは昔の歌手の歌が流れる

海南市立巽中学校

二年 中野 彩奈

真っさらな浴衣で向かう夏祭り今夜限定小粋なわたし

田辺市立明洋中学校

二年 武田 悠以

(高校の部)

夏休み部活帰りに空見ると夕日が鳥をかがやかせている

和歌山県立笠田高等学校

一年 櫻井 心子

待ち合わせ駅のホームで君探す花火の音が響き始める

和歌山県立那賀高等学校

一年 服部 杏海璃

ひまわりは太陽見つめ咲いている一つに向かう心が欲しい

和歌山県立那賀高等学校

一年 木原 莊愛

かつこいい私のかれし部活バカそういう所モテそうでいや

和歌山県立和歌山北高等学校

三年 戸川 友那

二十二時ドラマ見ながら桃アイス背徳感を楽しんだ夜

和歌山県立和歌山北高等学校

二年 江頭 亜実

五月雨の中へ響かす駒の音一手一手が成長の道

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 和田 有史

懸命に電車の窓でしがみつく蛙のように強くなりたい

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 宮崎 大輔

カラオケでともに歌った相棒が教えてくれた本を読みたい

和歌山県立桐蔭高等学校

二年 中村 禾悠

五時起きで作った顔もかなわない寝癖をつけて笑うあの子に

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 寺下瑠香

僕が見てかつこいいなと思うのは走り続ける汗だくな君

和歌山県立桐蔭高等学校

一年 御崎 成陽

大問二難しかったと言いあつて僕の答えは誰とも違う

和歌山県立桐蔭高等学校

二年 寺田 侑史

鬼ごっこ届きそうで届かない鬼にしたいないつかあなたを

和歌山県立日高高等学校

三年 大西 優樹